

「Small Works 1950s-2020」



アートコートギャラリーでは、具体美術協会〔以下「具体」。1954年設立、1972年解散〕に在籍し、その後も長期にわたり先覚的な表現を探索し続けた4人の作家による展覧会「Small Works 1950s-2020」を開催いたします。

■ 出展予定作家

正延正俊 (1911-1995) / 田中竜児 (1927-2014) / 前川強 (1936-) / 今井祝雄 (1946-)

■ 企画趣旨

近年では、ニューヨークのグッゲンハイム美術館での大規模な回顧展(2013年)以来、具体の世界的な評価はさらに高まり、国際的な文脈で戦後美術を捉える展覧会に具体の作品を含める傾向も数多くみられます。

当ギャラリーは2003年のオープン以来、村上三郎をはじめ関西ゆかりのインターナショナルな作家として具体の作家に着目し、地域の文脈とも結びつけながら、ここ大阪から具体に所属した作家たちの活動を世界に向けて発信してまいりました。本展では、制作スタイルの異なる4人が具体を通して拓いた、孤高の世界観が凝縮された小作品群を中心に、展示を構成します。

■ 4作家と「具体」

具体の創設時からの会員である正延正俊は、最初期の具体で実験的な絵画やパフォーマンスが展開されるなかで、地道に抽象絵画を追求し独自の絵画世界を確立させました。1957年に来日したフランス人の美術評論家 ミシェル・タピエは、関西で具体に出会いその活動を絶賛しました。翌年には初の具体海外展(ニューヨークほかアメリカ各地に巡回)が開催され、正延の作品も展示されました。この展覧会を皮切りに欧米で頻りに具体の展覧会が催され、具体は国際的に広く認知されることになります。

具体の展示施設であるグタイピナコテカ(大阪・中之島)が開設された1962年に、前川強は同グループの会員となりました。前川は、穀物やコーヒー豆の運搬に使われるドンゴロス(麻袋)を絵画の支持体に加え、有機的なフォルムを隆起させ、絵の具を吹き流した作品で注目を集めました。第15回具体美術展(1965年)を機に迎え入れられた新メンバーのなかに、19歳の今井祝雄がいました。キャンバスの内側に既製品を仕込み表面に穴を穿った白のシェイブド・キャンバスの作品群や、電動モーターによって表面が動く作品に加え、早い時期から映像に取組むなど具体に新風を吹き込みました。

今井の参加と同年に、白髪一雄と長年親交が深く白髪と同じ日本画のバックグラウンドをもつ田中竜児が具体に参加し、1967年までメンバーとして活躍しました。日本画の技法と素材によって力強さのなかに静謐な佇まいのある大作に精力的に取り組む、革新的な表現を展開しました。

■ 出展予定の作品について (詳細は次頁以降に掲載)

本展は、4作家の新旧を交えた作品のコラボレーションとなります。

正延については具体に所属した1950年代・60年代の希少かつ貴重な作品を、田中については90年代の作品を中心に、小さな画面に様々な実験のあとがみられる作品群を、そして前川・今井については1970年代から最近作までを含め、展示を構成します。

何ものにも囚われない自由な創造の精神を支えに「未知の世界への果敢な先進」*を実践し続けた彼らの表現を通じて、本展がそのしなやかなエネルギーを伝える機会となれば幸いです。ぜひ本展をご紹介、ご高覧賜りますよう、お願い申し上げます。

* 吉原治良「具体美術宣言」『芸術新潮』1956年12月号より引用。「…すべて未知の世界への果敢な先進を具体美術は高く尊重する」

【展覧会概要】

展覧会タイトル : **Small Works 1950s-2020**

出展作家 : **正延正俊, 田中竜児, 前川強, 今井祝雄**

会期 : **2020年 9月8日 [火] - 10月10日 [土]** *休廊: 日・月・祝

*新型コロナウイルスの感染拡大状況などにより、会期や開廊時間に変更される場合があります。

会場 : アートコートギャラリー 〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開廊時間 : 11:00-17:00

▶ 展覧会の作品資料や展示風景等はオンラインでも公開予定です。(www.artcourtgallery.com)

▶ 館内は新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底しています。〔スタッフの検温、手洗い、手指などの消毒/館内の除菌、換気〕

▶ お客様には以下のご協力をお願いいたします。

- ・発熱や咳などの症状のあるお客様には、入館をご遠慮いただきます。
- ・館内では常時マスクの着用をお願いします。
- ・入口と受付に消毒液をご用意しています。入場の際には手指の消毒をお願いします。
- ・展示室で観賞いただく際の人数は最小限に留めるよう配慮します。
- ・会期中に、万が一集団感染が発生し、お客様に連絡の必要がある場合に備え、入館時にお名前、ご連絡先、入館時間のご記入をお願いします。ご記入いただいた個人情報、弊社の個人情報保護方針に基づき厳正に管理・保管いたします。

主催 : アートコートギャラリー (株式会社八木アートマネジメント) / 協賛 : 三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 福田・清澤] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

「Small Works 1950s-2020」



正延正俊 Masatoshi Masanobu

正延正俊(1911-1995)は、具体美術協会創設時のメンバーとして、解散まで同会に所属しました。

1950年代後半から60年代には、画面にタッチやストロークを集積させ、線の粗密の変化によって生動するような感覚を内包する絵画を制作しました。西宮市大谷記念美術館と高知県立美術館で開催された回顧展「没後20年 具体の画家—正延正俊」(2015)では、正延の絵画の美術史的価値が再評価され、その後も国内外の美術館やギャラリーでの展示が続いています。

本展では1950年代の希少なキャンバス作品に加え、グタイピナコテカの個展(1965年)を経てさらに深みを増した1966年頃の未発表の素描を複数点展示します。



■ 出展予定作品 《作品》1959年頃
油彩、キャンバス | 46.7 x 34.5 cm



■ アトリエの様子(1958年)
この作品は1958年に具体にとっての初の海外展(のちに第6回具体美術展とされる)「具体ニューヨーク展」(マーサ・ジャクソン ギャラリー, NY, 他 アメリカ各地へ巡回)へ出品された。翌年には雑誌『Notizie』第2巻第8号(トリノ、イタリア)で具体が特集され、作品の図版と正延の言葉が掲載された。

- 渦巻風が一瞬 ものをさらい吹き上げた。ゴミ、ホコリ、木切、藁…
- 更に木、石、水、瓦、生物を巻きさらい吹上げる龍巻。
- 地上に群がっていて、さっと飛立ち、乱れまい上る鳥の群。
- その一つ一つが生き動いていて、全体が一つの大きな流れの中のものにのっている。そういった生動感、風。

正延の自筆のメモより(1958年8月14日)

■ 作家略歴 正延正俊 (1911-1995)

1954 具体美術協会会員となる[’72の解散まで]

| 主な個展 |

- 1965 正延正俊個展(グタイピナコテカ、大阪)
- 2015 没後20年 具体の画家—正延正俊(西宮市大谷記念美術館/高知県立美術館)
- 2018 正延正俊—『MASATOSHI MASANOBU』出版記念展(アートコートギャラリー、大阪)
Masatoshi Masanobu(アクセル・ヴェルヴォールト・ギャラリー・アントワープ)

| 主なグループ展 |

- 1934 RT社同人洋画展(高知新聞社楼上)
- 1949 第23回国画会展覧会(東京都美術館/大阪市立美術館)
[’58まで連続出品(会場は開催年により異なる)]
- 1955 第7回読売アンデパンダン展(東京都美術館)
真夏の太陽にいでむモダンアート野外実験展(芦屋公園)
第1回具体美術展[’68まで連続出品(会場は都度異なる)]
- 1960 国際スカイフェスティバル(高島屋屋上、大阪)
- 1961 日本に於ける連続性と前衛展(国際美学研究所、トリノ)
- 1964 現代美術の動向 絵画と彫塑(国立近代美術館京都分館)
- 1965 具体グループ展(スタドラー画廊、パリ/ケルン美術協会 ほか)
- 1970 グタイグループ展示(万博みどり館エントランスホール、吹田)
- 1985 具体—行為と絵画展(スペイン国立現代美術館、マドリッド/兵庫県立近代美術館ほか~’86)
- 1991 具体・日本の前衛 1954-1965(ダルムシュタット市立マチルデンヘーエ美術館)
- 1999 具体(ジュ・ド・ポーム国立ギャラリー、パリ)
- 2012 「具体」—ニッポンの前衛18年の軌跡(国立新美術館、東京)
- 2016 あの時みんな熱かった! アンフォルメルと日本の美術(京都国立近代美術館)
- 2018 Gutai, L'espace et le temps (スーラージュ美術館、ロデーズ、フランス)
- 2020 開館記念展「見えてくる光景 コレクションの現在地」(アーティゾン美術館、東京)

| 主なパブリックコレクション |

大阪中之島美術館/京都国立近代美術館/高知県立美術館/国立国際美術館(大阪)/西宮市大谷記念美術館/兵庫県立美術館/アーティゾン美術館(東京)/レ・ザバトワール(トゥールーズ)/カンティーニ美術館(マルセイユ)

※ 代表作や詳細な経歴は下記URLよりご覧ください
<http://www.artcourtgallery.com/artists/masanobu/>

「Small Works 1950s-2020」



田中竜児 Ryuji Tanaka

田中竜児(1927-2014)は、パンリアル美術協会の結成・参加(1949-1951)を経て、1965年から67年まで「具体」に参加し、その活動は「…パンリアル退会ののち具体美術協会会員ともなり、もはや『日本画』という範疇を超え出た活動を展開した」¹と高く評価されています。田中は、岩絵具のほかに砂や漆喰などの素材を使い、たらし込みなどの技法で時に荒々しく時に寡黙に「自然」を表現しながら「伝統における現代の可能性」を探求し日本画の革新を希求しました。作品《棲(9)》を収蔵するテート・モダン(ロンドン)のキュレーターは、同作品について「エネルギッシュな構成と幻想的なフォルムがシュルレアリスムに触発された田中の初期の作品を連想させる」²と論じています。本展では、1990年代までの作品を展示します。

- 1) 「日本画の前衛 1938-1949」展(2010年 京都国立近代美術館にて開催)「各章解説 - V. 戦後の再生:パンリアル結成への道」より
出典: <https://www.momak.go.jp/japanese/exhibitionArchive/2010/382details.html>
- 2) 原文は次の通り: *Its energetic compition and fantastical form is reminiscent of Tanaka's early works inspired by surrealism.*
出典: <https://www.tate.org.uk/art/artworks/tanaka-sei-9-t14835>、筆者はLena Fritsch、文中の邦訳はアートコートギャラリーによる。



■ 出展予定作品 《自然 '90 光 (1)》1990年
岩絵具、金泥、木パネル、他 | 24.4 x 33.5 cm

..「自然」との合一。これが私の創作理念です。自然の織りなす優しさと厳しさの交錯点に自らを置き、そこに見えるもの、聞こえるものを「私」を通して表現するのです。その表現する行為(写実)とは、対象が内包する「実」つまり「気」を抽出し、具現化することにあります。

『田中竜児作品抄』(1993年出版)の送付状に書かれたコメントより抜粋

■ 作家略歴 田中竜児 (本名: 田中進 1927-2014)

- 1949 パンリアル美術協会['51まで]
- 1956 画号を竜児とする
- 1965 具体美術協会会員となる['67まで]

| 主な個展 |

- 1960 田中竜児個展(神戸阪急画廊)
- 1963 田中竜児個展(竹川画廊、東京)
- 1987 TANAKA RYU peinture suibokuga(ESPACE JAPON、パリ)
- 2001 田中竜児展 二つの表情(サンパル5階市民ギャラリー、神戸)
- 2002 情熱と尖鋭 田中竜児展(JR大阪セルヴィスギャラリー)
- 2016 Ryuji Tanaka(アクセル・ヴェルヴォールト・ギャラリー、アントワープ、ベルギー/香港)
- 2017 Ryuji Tanaka(サイモン・リー・ギャラリー、ロンドン/ニューヨーク)
- 2018 Ryuji Tanaka(アクセル・ヴェルヴォールト・ギャラリー・アントワープ、ワインエーゲム、ベルギー)

| 主なグループ展 |

- 1949 第1回パンリアル展['50第5回展まで連続出品、会場は開催年により異なる]
- 1963 The First Annual Exhibition of the Sumi-e Society of America (The Nippon Club、ニューヨーク)
- 1965 第15回具体美術展(グタイピナコテカ、大阪)
- 1967 第19回具体美術展(東京セントラル美術館/グタイピナコテカ、大阪)
- 1976 具体美術の18年(大阪府民ギャラリー)
- 1979 吉原治良と具体のその後(兵庫県立近代美術館)
- 1985 兵庫現代美術展『音楽』(兵庫県立近代美術館)
- 1992 開館10周年記念 具体美術協会の作家たち(宮城県美術館)
- 1993 具体展III 1965-1972(芦屋市立美術博物館、兵庫)
- 1994 兵庫の日本画展(PICA、パース、オーストラリア)
- 2012 「具体」ニッポンの前衛18年の軌跡(国立新美術館、東京)
- 2015 針生一郎と戦後美術(宮城県美術館)

| 主なパブリックコレクション |

- 兵庫県立美術館/宮城県美術館/芦屋市立美術博物館/大阪中之島美術館/シカゴ美術館/テート・モダン(ロンドン)/ラチョフスキー・コレクション(ダラス)



■ 参考作品 《棲(9)》1962年頃 | 岩絵具、カンヴァス、他
162 x 130.5 cm | テート・モダン所蔵

※ 代表作や詳細な経歴は下記URLよりご覧ください
<http://www.artcourtgallery.com/artists/tanaka/>

「Small Works 1950s-2020」



前川強 Tsuyoshi Maekawa

前川強(1936-)は、ドンゴロスを隆起させ絵の具を吹き流した作品で「具体」第二世代の代表的な作家の一人として注目され、1978年頃より麻や綿など柔らかい布に縫いを施し、伸びやかさと緊張感を兼ね備えた線を持ち味とする作品を数多く発表しました。近年では、2014年ニューヨークでの個展を皮切りに、欧米やアジアの美術館やギャラリーの展覧会への出展が続き、国際的な評価がさらに高まっています。それに応える作品群を作家が長期にわたって精力的に制作し続けていた背景があります。本展では1970年代の秀作を含め新作も発表します。衰えを知らない制作へのエネルギーにご注目ください。



■ 出展予定作品 《無題》1982年
キャンバス、アクリル、縫い、他 | 24.5 x 33.2 cm

・・・かつて荒々しい反抗の手段であったキャンヴァスは、今や、マジシャンのようなかれの繊細な手わざによって、壮麗なイメージを生む装置と化した。それが生み出すイメージは、一見、大地のようであり、流水のようであり、人体の部分のようであり、自然のエッセンスを連想させるなにかをふくんでいる。人がその種の連想に向かうことを拒否はしないが、作者としては、いかなる種類の比喩も企図していない。(中略)

・・・人間は皮膚であり、世界は表皮であり、絵画もまた表面であるというこの画家のコンセプトは、穏やかではあるが、強く執拗な現代に対する美的批評に他ならない。

瀬木慎一 「壮麗なイメージをうむ-前川強の仕事について-」
山本美術(大阪)の個展カタログ『前川強作品集 1960-1986』(1986年)より



■ 「吉原治良と具体のその後」(兵庫県立近代美術館/1979年)展示風景。壁の2点が前川による、コールドールを溶剤でにじませた縫いの作品。

「Small Works 1950s-2020」展では、同様の手法で1970年代後半に制作された作品を約40年ぶりに展示する。

■ 作家略歴 前川強 (1936-)

1962 具体美術協会会員となる[’72の解散まで]

| 主な個展 | - 近年の展覧会を中心に -

1963 前川強個展(グタイピナコテカ、大阪)

1975 個展(大阪府民ギャラリー)[’79]

1991 個展(椿近代画像、東京)[’93、’03]

2014 Tsuyoshi Maekawa(ドミニク・レヴィー・ギャラリー、ニューヨーク)

2017 Tsuyoshi Maekawa(サーチギャラリー・サロン、ロンドン)
前川強 - 『MAEKAWA』『MAEKAWA II』出版記念 - (アートコートギャラリー、大阪)

2018 Tsuyoshi Maekawa(Sotheby's S|2 Gallery、ロンドン)

2020 Tsuyoshi Maekawa(アクセル・ヴェルヴォールト・ギャラリー・アントワープ、
ワインエーゲーム、ベルギー)

| 2000年以降の主なグループ展 |

2004 結成50周年記念「具体」回顧展(兵庫県立美術館)

2007 国立国際美術館 開館30周年記念展「30年分のコレクション」(国立国際
美術館、大阪)

2011 Nul= 0. - 国際的文脈におけるオランダの前衛 1961-1966(スキューダム市立
美術館、オランダ)

2012 「具体」- ニッポンの前衛18年の軌跡(国立新美術館、東京)

2013 日本の絵画の五十年(和歌山県立近代美術館)

Tàpies: The Eye of the Artist(パラッツォ・フォルチュニー、ヴェニス)

2017 Beyond Matter(ガゴシアン、サンフランシスコ)

2018 Gutai(Hauser & Wirth、ニューヨーク)

2019 集めた!日本の前衛-山村徳太郎の眼 山村コレクション展(兵庫県立美術館)

| 主なパブリックコレクション |

京都国立近代美術館/国立国際美術館(大阪)/東京都現代美術館/高松市美術館
/大阪中之島美術館/テート・モダン(ロンドン)/シカゴ美術館/M+(香港)

※ 代表作や詳細な経歴は下記URLよりご覧ください
<http://www.artcourtgallery.com/artists/maekawa/>

「Small Works 1950s-2020」

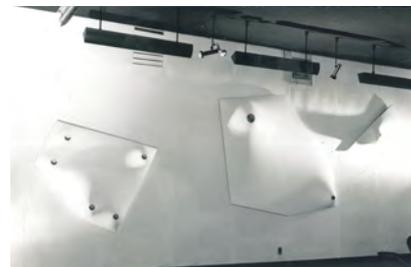


今井祝雄 Norio Imai

今井祝雄(1946-)は、19歳で最年少の会員として「具体」に入会し、今日まで時代の推移と共にメディアや手法を拡張・横断しつつ多様な表現活動を続けています。

「具体」に在籍した時期の代表作として知られる白の造形から、非物質的な写真・映像表現への移行期にあたる1970年に、今井は石そのものの存在を明示するようなモノタイプのリトグラフのシリーズを制作していました。本展では、このリトグラフの連作に加え、新作《白マンダラ》のシリーズより9点を壁一面に展示します。いずれも、規則的に連作として仕上げる手法に共通点がみられます。この新作は、今井が具体に参加した1965年に評論家・針生一郎によるシェル美術賞の講評「…個々のかたまりが完結して自己を語るかわりに、群をして想像的な空間の単位を形づくる、ひらかれた性格を持っている」*と、「白」からはじまった今井の創作活動の原点を想起させます。

* 針生一郎「第10回シェル美術賞総評」『第10回シェル美術賞』展パンフレット、1966年



■ 参考作品: 初期の白の造形(グタイピナコテカ、大阪、1965年)。左の作品は第10回シェル美術賞1等賞を受賞した《白のセレモニー・Holes 1》



■ 出展予定作品 左から《石のフレーム-A》《黒い石板II》1970年リトグラフ(モノプリント) | 54 x 38 cm



■ 1970年代の参考作品: 《ジョイントッド・フィルム》1972-73/2014 | 展示風景(アートコートギャラリー、2014年) 大阪中之島美術館所蔵

テレビ局からの廃棄16ミリフィルムを切断しランダムにつないだ映像などで構成されたインスタレーション

・自然の素材そのものが際立つことなく、テクノロジーが前景化しない、つまり素材と技術におもねない。そこにアートとしてのメッセージが加わったとき、新たな意味での「自然」が表現できるのではないかと考えていました。その考えは今でも変わりません。(中略) 個人的には万博がちょうど僕らの作品の変わり目というか、節目みたいな時期でもありました。

『ART FORUM』誌(2013年2月号)のインタビュー掲載のための今井の回答より抜粋。1970年の大阪万博のころの構想や制作の背景に関する内容。(上記回答は誌面には未掲載)

■ 作家略歴 今井祝雄 (1946-)

1965 具体美術協会会員となる[’72の解散まで]

| 主な個展 | - 近年の展覧会を中心に -

1964 17才の証言(ヌーヌ画廊、大阪)

1966 個展(グタイピナコテカ、大阪)

1980 矩形の時間(ギャラリーキタノサーカス、兵庫)

2012 Retrospective(アートコートギャラリー、大阪)[’14、’16]

2014 ユミコチバアソシエイツ viewing room shinjuku、東京[’15、’16]

2018 物質的恍惚(アクセル・ヴェルヴォールト・ギャラリー・アントワープ、ワインエーゲーム、ベルギー)

2019 今井祝雄-行為する映像(アートコートギャラリー、大阪)

| 2000年以降の主なグループ展 |

2007 ラディカル・コミュニケーション:日本のビデオアート1968-1988(ゲティ・センター、ロサンゼルス)

2009 ヴァイタル・シグナル-日米初期ビデオアート(ジャパン・ソサエティ、ニューヨーク/横浜美術館/ほか ~2010)

2011 Nul=0.-国際的文脈におけるオランダの前衛 1961-1966(スキーン市立美術館、オランダ)

2012 「具体」ニッポンの前衛 18年の軌跡(国立新美術館、東京)

A Visual Essay on Gutai at 32 East 69th Street (Hauser & Wirth、ニューヨーク)

2013 具体:素晴らしい遊び場所(グッゲンハイム美術館、ニューヨーク)

2015 Re: play 1972/2015-「映像表現 ’72」展、再演(東京国立近代美術館)

2016 Performing for the Camera(テート・モダン、ロンドン)

蛍光菊(ICA、ロンドン)

2018 Gutai, L'espace et le temps(スーラージュ美術館、ロデーズ、フランス)

| 主なパブリックコレクション |

芦屋市立美術館/大阪中之島美術館/京都国立近代美術館/ゲティ・センター(ロサンゼルス)/ファーマサイエンス・コレクション(カナダ)/ラチョフスキー・コレクション(ダラス)

※ 代表作や詳細な経歴は下記URLよりご覧ください
<http://www.artcourtgallery.com/artists/imai/>